

あさかわ かんいち 朝河貫一 博士 生誕150年

世界的歴史学者であり、平和主義者として大きな足跡を残した朝河貫一博士は、今年、生誕150年を迎えます。生誕150年を記念して、博士を顕彰する事業を開催しています。



朝河貫一博士
※このページの背景写真は、博士が留学したダートマス大学。

【朝河貫一博士のおいたち】

- ・明治6(1873)年12月20日(戸籍上は22日)二本松町下ノ町新長屋(現・根崎二丁目)で生まれる。(父・正澄、母・ウタ)
- ・明治7(1874)年8月 父・正澄、立子山小学校創設のため、一家で立子山村(現・福島市)に移る。
- ・明治12(1879)年5月 立子山小学校入学。
- ・明治19(1886)年4月 川俣高等小学校に転校。
- ・明治20(1887)年4月 福島尋常中学校に入学。
- ・明治22(1889)年3月 同中学校が安積郡桑野村(現・郡山市)に移転。
- ・明治25(1892)年3月 同中学校卒業。
- ・同年11月 東京専門学校(現・早稲田大学)入学。
- ・明治29(1896)年、米国留学(ダートマス大学、イエール大学大学院)。
- ・昭和23(1948)年8月11日 米国バーモント州ウエストワーズボロで死去。

【博士の主な偉業①】 『入来文書』の執筆

世界的歴史学者として、大正6(1917)年にイエール大学から日本留学を命じられ、鹿児島県薩摩郡入来村(現・鹿児島県薩摩川内市)の『入来院文書』の調査を実施。古文書を英語に訳しながら、日本とヨーロッパの封建制度について研究し、歴史学に『東西比較法制史』の分野を開拓した。

【博士の主な偉業②】 『日本の禍機』と大統領親書草案の執筆

平和主義者として、明治37(1904)年の日露戦争終結後に『日本の禍機』を執筆。日本が軍国主義へと歩んでいくことで、日本が世界から孤立していくと警鐘を鳴らした。また、日米開戦を止めるべく、大統領親書の草案を執筆し、親書は昭和天皇のもとへと届けられた。しかし、博士の努力もむなしく昭和16(1941)年12月8日、日本軍による真珠湾攻撃がはじまり、太平洋戦争へと突入した。

【博士ゆかりの地】 博士生誕の地



竹田・根崎コミュニティセンター前

朝河家墓所



金色墓地内

朝河ざくら

学生時代、英英辞典を2ページずつ暗記しては食べるか破り捨て、残ったカバを校庭の隅の若桜の根元に埋めたという。後にこれを「朝河ざくら」と呼ぶようになった。その苗木が二本松市に植えられている。



二本松市役所敷地内

記念事業①

【朝河貫一博士を深く知る特別授業】

作文コンクール

二本松市内のほか、博士にゆかりのある福島市も含めた中学3年生を対象として作文を募集しました。10月には作文コンクールの表彰式を行います。

テーマ

「朝河貫一博士の考えや生き方からどのような思いを抱き、自らの人生を切り開いていくか」

出前授業

市内7中学校、福島市内2校で、出前授業を実施しました。(写真は安達中学校)



記念事業②

【記念講演会】

日時 10月14日(土)
午後1時30分～4時15分

場所 安達文化ホール

内容

- ①中学生作文コンクールの表彰式、発表
- ②基調講演会

〔仮〕歴史学者 朝河貫一博士が二本松藩士父正澄から受けた影響とは

早稲田大学文学学術院教授

③トークディスカッション
パネリスト
甚野 尚志氏

早稲田大学文学学術院教授

公益社団法人二本松青年会議所理事長

加藤 大史氏

二本松市内小学校PTA役員

鈴木 千鶴氏

二本松市教育委員会教育委員

関 奈央子氏

NPO法人地域のみんなのチカラ監事

寺島 康浩氏

入場料 無料

定員 300人

※事前登録制とし、定員になり次第、締め切りとします。

申込方法

下記二次元コードからお申し込みください。

下記二次元コードからお申し込みください。

申し込みください。

申し込みください。

申し込みください。

申し込みください。



記念事業③

【企画展】

朝河貫一博士の父で戊辰戦争を二本松藩士として戦った父「朝河正澄」の生き様にスポットをあてた企画展です。



朝河正澄 (福島県立図書館蔵)

正澄の人物像や貫一が父から受けた影響などを展示で紹介します。

日時 9月16日(土)～11月19日(日)
午前9時～午後5時
(最終入館は午後4時30分)

※休館日
9月19日(火)、25日(月)、10月2日(月)

場所

にほんまつ城報館1階

二本松歴史館「第2展示室」

入館料 無料



◎問い合わせ:

文化課文化振興係

☎(55)5154 Fax(23)1326